

工業化学会 49 年度会に於て報告した所である。更に、戦局の推移につれてこの種の反応も改策を加へ簡易化する必要に迫られ、反応中外部より水素瓦斯を供給せずに目的を達すべく、触媒層に前置した金属鉄と試料と共に供給した水との反応に依り水素を発生せしめる方法を考案し、フェノールを試料とせる場合には満足すべき結果を得たのである。低温タールを試料とせる場合は更に改良すべき点はあるが、充分成功の可能性を認めたのである。終戦と共に、一應この研究は中止したのであるが、今後共切迫した吾国の状況より、この種の研究の意義を再認識し目下研究続行中である。

25. ポリヴィニルアルコールのブチラール化に関する研究

奈良 崎 漢

ポリ醋酸ヴィニル (PVAC) をアルカリ触媒で鹼化しポリヴィニルアルコール (PVA) を作り酸触媒の下でブチルアルデヒド (B-Al.d.) に依りブチラール化を行ふ実験は既に行ひ結果の一部を発表した (高分子化学第 1 巻 3 号 11 頁 並に 22 頁参照)。本報告は鹼化を酸触媒で行った場合であり、先づ PVAC をメタノール或はエタノールに約 10% 程度の濃度に溶解し硫酸或は塩酸を添加 60°C で反応せしめた後 B-Al.d. を添加してブチラール化を行った。実験結果を要約すると

- 1) メタノール系の方がエタノール系よりも反応は速がであつた。
- 2) 触媒としては硫酸より塩酸の方が反応性大であつた。
- 3) ポリヴィニルブチラール皮膜の透明性、耐熱性等に就て塩酸触媒の方が良好である。皮膜の着色は硫酸触媒の方が少い。